

2014年6月11日  
中日新聞

甲賀

(第3種郵便物認可)

## 木の駅プロジェクト

# 環境保全と地域振興

森林の環境保全と地域振興を目的とした「甲賀木の駅プロジェクト」が10日、甲賀市甲賀町でスタートした。間伐材の出荷に対して一定の金額を上乗せした地域振興券を発行する仕組み。森林所有者の労働意欲を高めることも、地域活性化にもつなげようという試みだ。

(小川直人)



林業研究グループ「甲賀森林クラブ」こと大原自治振興会の約二十人が運営委員会(竹中島賢博委員長)を作り企画した。

地域の森林所有者を中心に参加を募り、運営案に登録。登録者は所有の山林などから、間伐材や間伐後に放置された残材をチップ化する工場に出荷する。

現状の買い取り額は一

初出荷の間伐材を確認する関係者「甲賀市の大島神社で

## 甲賀で初出荷 間伐材代金に上乘せ

が三千〜三千五百円と低額で担い手は減り、荒れてしまつ山林も少なくなつた。このため、事業では運営案が買い取り額に上乘せした六千円分の地域振興券「モリ券」を発行する。モリ券は地域の登録商店で使える。財源は出資金や寄付などで賄う方針だ。

大島神社(島屋敷)で10日、発足式典があり、事業の成功を祈願。神社の所有林から事前に切り出された間伐材が初出荷された。

竹中島委員長は「山に入る人を増やしたい。助け合いながら山を管理してきた伝統も次世代につなげていきたい」と事業の広がり期待を寄せた。